

済生会川内病院
広報にじ

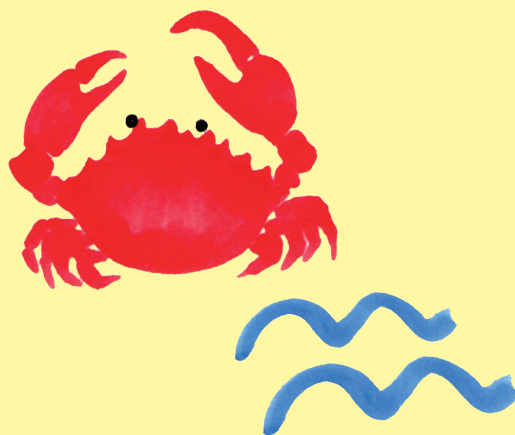
vol. 75

2026/06
TAKE FREE

niji

CONTENTS

- 02 SPECIAL FEATURE
DMAT (災害派遣医療チーム)の紹介
- 05 わたしのおしごと
がん相談支援センター 社会福祉士
- 06 新任Dr.紹介
- 07 信頼と連携の輪
- 08 医療型短期入所事業のご案内



DMAT

（災害派遣医療チーム）の紹介

DMATとは

DMATとは『災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）』の略で、大規模災害が発生した際に、被災地へ迅速に駆けつけて医療活動を行う、専門的なトレーニングを受けた医療チームのことで、1チームは、医師・看護師・業務調整員の約5名で構成されています。

DMATが力を発揮するのは、災害の急性期と言われています。急性期では、道路が寸断され、インフラが崩壊する中で、外傷患者や体調不良者が多く発生します。多くの方が、病院に集中してしまうと病院の機能が低下し、必要な医療機器を使用できないことも少なくありません。そのような状況

の中で、DMATは被災地で「できるだけ早く」「必要な人に必要な治療を」「安全に提供する」ことを目的として活動します。

DMATの大きな特徴は「迅速性」で、災害発生から約48時間以内に現地に入り、治療の優先順位を決めながら救命活動に当たります。また、現場の状況を的確に分析し、必要に応じて他の医療機関への搬送調整、不足している医療資源の手配、病院支援や避難所への医療提供・環境整備など、役割は多岐にわたります。災害時における救助活動は、DMATだけでは成り立たず、警察、消防、自衛隊などの公的機関と協力しながら行います。日頃から緊張感を持って訓練や研修を重ねることで、災害発生時に「迅速に」「的確に」「安全に」活動できるよう努め



ています。

当院は1997年3月に災害拠点病院に指定され、2014年に初めてDMATが発足、2018年には2チーム目のDMATが発足しました。

DMATの歴史と背景

DMATが発足するきっかけとなったのは、1995年に起きた「阪神・淡路大震災」でした。この震災において、日本の災害医療体制の不十分さ



さつま町で行われた県総合防災訓練の様子

が浮き彫りとなりました。適切な初期対応や治療が、迅速に行われていれば救えた可能性のある「防ぎえた死」が多くあったと言われています。この教訓を基に、厚生労働省は、

2005年に日本全国で活動する「日本DMAT」を発足しました。これにより、災害時に迅速かつ効果的な医療支援を提供する体制が整備されました。以来、DMATは東日本大震災(2011年)、熊本地震(2016年)、西日本豪雨(2018年)、能登半島地震(2024年)など数々の災害で活躍し、その有効性が認められています。

その中で、当院DMATも活動にあたった熊本地震での体験談をお話しします。

熊本地震への派遣を経験して

4月14日21時26分

- ・震度7の地震発生(前震)。
- ・当院DMATが済生会川内病院へ招集される。

被災状況の情報収集をしながら出動準備に取り掛かる。

4月15日2時00分

- ・九州ブロック(沖縄を除く)DMAT出動要請。
- ・参集拠点は「熊本赤十字病院」。
- ・出動準備が整うも、出発する直前に鹿児島県庁より待機命令の指示が入る。

被害が長期化する恐れがある。県の判断で、県内全てのDMATを一斉に出動させるのではなく、第2次派遣、第3次派遣まで確保し、順次出動させることになる。

- ・余震が度々発生し、緊張感ある時間が続く。
- ・4月16日1時25分

震度7の地震発生(本震)。
DMAT出動要請ブロックが拡大(九州・四国・中国・近畿)。
済生会川内病院DMATに出動要請。

6時30分

- ・再び準備を行い、参集拠点である熊本赤十字病院へと出発。

被災地では、道路の寸断や通信障害が発生。

高速道路は緊急車両だけ通行可能である、と他DMATから情報が入る。

最寄りの警察署にて緊急通行車両確認証明書を発行。

高速ICにて証明書を提示するも、情報が錯綜中であり通行許可が下りず、複数の医療チームが足止めされる。安全を最優先とし、速度制限の条件付きで緊急車両のみ通行可能となる。

医療チームが到着しても、すぐに活動できる状況ではないのかもしれない、と不安になる。

12時30分

DMAT参集拠点である熊本赤十字病院に到着(普段より倍の移動時間を要した)。

DMAT本部より今後の活動指示があるまで本部待機となる。

14時30分

- ・DMAT本部より東病院での病院支援指示あり(当院含め

5チームのDMATで活動)。

- ・すぐに移動し、入院患者や夜間の救急対応にあたる。
- ・現地では余震が続く中、多くの患者が集中し、病院の医療機能が低下。

- ・さらに、近隣施設の患者や被災による救急搬送患者の受け入れ要請が続く、非常に切迫した状況となる(在院患者63名、近隣の介護施設より受入23名、救急入院20名)。

- ・約100名規模の患者対応を複数のDMATで分担しながら対応。
- ・休む間もなくひたすら活動が続く。

- ・活動中も頻繁に余震が発生。都度、安全確認が必要な状況。

4月17日9時00分

- ・DMAT本部より、新たに5チームが東病院に派遣される。
- ・これに伴い、活動中であった現5チームは交代となり、各チームへ引き継ぐ。

11時00分

- ・DMAT本部である熊本赤十字

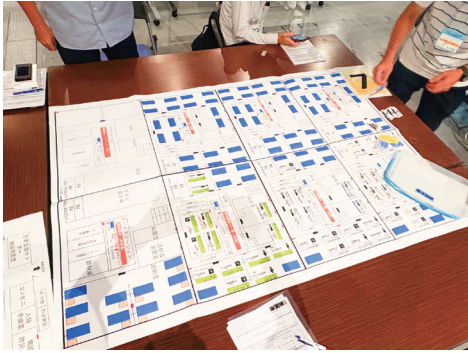
字病院へ帰還。

- ・活動報告後に撤収となり、済生会川内病院へ向けて出発。

19時00分

- ・済生会川内病院へ無事に帰院。
- ・日曜日だったにも関わらず多くの職員に迎えられ、労いの言葉をかけてもらう(感謝)。

本地震でのDMAT活動を経験し、複数のチームや関係機関が同時に動く中、情報を正しく整理し、共有することの難しさを痛感しました。必要な物資



DMAT技能維持研修における机上演習

や人員を適切に配置するには、現場の状況を正確に把握し続けることが求められます。その中で、チームで声を掛け合いながら対応したことが印象に残っています。短期間ではありましたが、非常に濃密な時間でした。この経験から、迅速な出動調整・被災地での柔軟な対応・チーム間の連携・日頃から訓練や準備をすることの重要性を改めて実感しました。

当院は、「災害拠点病院」、「原子力災害拠点病院」、「へき地医療拠点病院」、「鹿児島県DMAT指定病院」の施設認定を受けています。北薩地域での災害時には、非常に重要な役割が課せられます。院内では、年に一度、大規模災害訓練を実施しています。今年度からは、毎月テーマを変えて、災害医療についての勉強会を行っています。また、日頃より医療資器材や物資の点検を定期的に行い、迅速かつ安全な医療を提供できるよう備えています。

最近では、鹿児島県総合防災訓練、九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練、DMAT技能維持研修、鹿児島空港航空機事故対応総合訓練など、数多くの訓練に参加しました。行政や他医療機関との横のつながりを強化し、実際の動きを再確認することで、チームとしての機動性を着実に高めて参りました。

読者の皆さんへ

我々DMATは、国民一人一人が少しでも災害時に十分な医療が受けられるよう、日々訓練に努め、活動しています。また、我々が災害時に活動できるのも、日頃からの皆さまのご協力のおかげです。今後ともご理解・ご協力・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



訓練後に道の駅で食べるソフトクリームは、体に染み渡ります

わたしのおしごと

がん相談支援センター 社会福祉士

そのはたみわ
園島 美和

院内の様々なお仕事についてご紹介するコーナー。第八回は、がん相談支援センター 社会福祉士・園島さんです。



園島 美和

野外を自然散歩することが好きです。自然の風を感じながらバイクを操り、ゆったり気ままに旅する時間に何より幸せを感じます。

あなたの仕事内容について教えてください。

地域のがんに関する相談窓口である、がん相談支援センターで相談員をしています。「がんの疑いがある」と告げられた時から、診断、治療、経過観察、そして大切な方とのお別れの後（グリーフケア）まで、さまざまな段階に寄り添います。不安な思いや気持ちに寄り添う、心のケアを中心に、医療のことや日常生活（医療費・仕事・家族のこと等）の支援制度の活用法、「何を相談したらよいか分からない」場合の相談も、個別に承っております。

仕事をやる上で、心がけていることは何ですか？

まず自分から心を開き、相談員として信頼していただくことを一番大切にしています。相談者の今までの人生の歩みの中で、大切にされてきたことや真の思いを受け止め、理解するよう努めています。生命に関わるご相談もあるため、相談後に心身の状態が悪化しないよう配慮し、相談前のいつもの日常生活に

戻れる状態でお話を終えられるよう、心がけています。

仕事にやりがいを感じるのとはどんな時ですか？

以前対応した患者さんの子どもさんが、高校生になったご報告に、私を訪ねて来てくださいました。あの時、下を向いていた彼女にかけた言葉を、年月が経った今でも覚えていてくださったことが、とても印象に残っています。成長した姿に再会できたその瞬間、心から相談員になってよかったと感じました。幼い子どもにも、心からの思いは必ず届くのだと実感した出来事でした。相談職を通して様々な方の生き方に触れ、日々、生きる意味を問い直す機会をいただいています。その一つひとつに、やりがいとありがたさを感じています。

今後の目標を教えてください。

相談員は、相談者の足元を照らす仕事だと思っています。不安や悲しみは、真っ先に足元を暗く、見えなくします。いつもは見えていた道が見えず、どこに次の一步を踏み出せばいいのか分からず、動けなくなるからです。一人の相談員が照らせる灯りは、小さなものかもしれないませんが、ひとりでも多く、不安を抱える方の足元を照らし、その方にとっての、次の一步を踏み出すための灯りとなれる相談員を目指す、これからも日々、研鑽に励んで参ります。

新任Dr.紹介



すなかわ なちか
砂川 奈慶
消化器内科

趣味/特技
温泉、山登り、
おいしいもの探し

初めての川内勤務になります。毎日元気に頑張ります。宜しくお願いたします。



にしくぼ しょうご
西久保 省吾
消化器内科

趣味/特技
ゴルフ
サウナ

薩摩川内市の皆様が安心して医療を受けられるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いたします。



しもじま なおき
下島 尚樹
腎臓内科

趣味/特技
キャンプ

腎を通じて患者様の全身状態がより良くなるよう、患者様と協働していく姿勢を心がけて診療にあたります。よろしくお願いたします。



なかわら かおり
中村 香織
糖尿病内科

趣味/特技
小動物と遊ぶ
こと、旅行

前任地は種子島でした。川内での勤務は初めてとなります。地域に貢献できるよう頑張ります！



ゆふね たかふみ
湯舟 貴文
糖尿病内科

趣味/特技
将棋
格闘技観戦

生まれも育ちも鹿児島市でしたが、この度薩摩川内市とのご縁を頂き、地域の方々の為に精進してまいります。



さかもと さき
坂元 沙樹
小児科

趣味/特技
音楽・映画鑑賞
バドミントン

このたび小児科医として赴任いたしました。お子さんやご家族が安心して相談できる存在になれるようがんばってまいります。どうぞよろしくお願いたします。



ふくひさ
福久 はるひ
外科・
消化器外科

趣味/特技
アザランの
情報収集、
読書、折り紙、耳が動かせませ

11年ぶりにもう一度赴任させていただきます。薩摩川内の医療のため精一杯努めて参ります。どうぞよろしくお願いたします。



わだ ますみ
和田 真澄
外科・
消化器外科

趣味/特技
息子、漫画、
お笑い、
安住紳一郎の日曜天国

患者さんが納得して最良の治療を選択できるよう努めてまいります。



にしだ ゆういちろう
西田 祐一朗
外科・
消化器外科

趣味/特技
温泉巡り

鹿児島大学病院より赴任しました。薩摩川内の外科診療に少しでも貢献できるよう頑張ります。



ありま たける
有馬 武尊
外科・
消化器外科

趣味/特技
海に行く

4月から赴任して参りました。一度見たら忘れられない見た目だと思います。薩摩川内市の皆様の健康のために診療・手術など全力で取り組みます。



くろしま かずき
黒島 和樹
泌尿器科

趣味/特技
スポーツ観戦
トレッキング

12年ぶりの赴任となります。薩摩川内市の地域医療に貢献できるように頑張ります。よろしくお願いたします。



いしだ けん
石田 絢
泌尿器科

趣味/特技
ゴルフ、
サウナ、書道

初めての川内勤務です。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いたします。



つるのぞの ひとみ
鶴園 仁美
産婦人科

趣味/特技
温泉やサウナ

女性のライフステージに寄り添った医療を心がけています。小さなことでも気軽に相談できる存在になれば嬉しいです！どうぞよろしくお願いたします。



ながの ひろあき
長野 広明
放射線科

趣味/特技
漫画

初めての川内勤務になります。薩摩川内の医療に貢献したいと考えています。よろしくお願いたします。



かりや けいすけ
仮屋 圭佑
放射線科

趣味/特技
釣り

当院には若手の頃に勤務させていただきました。このたび再び皆様と一緒に働くことを嬉しく思っています。またこの地域で高校時代を過ごした思い出もあり、個人的にも大変愛着のある場所です。これまでの経験を活かし、良い医療を提供できるように努めてまいります。



みよがさき とし
名ヶ迫 強
放射線科

趣味/特技
ゲーム
ゴルフ

初めての川内ですが、皆様のお役に立てるようがんばります。

信頼と連携の輪

地域医療を支える連携医療機関をご紹介します。



高江記念病院

平成24年に移転開院し15年目を迎えました。外来診療ではCT、胃カメラ、超音波検査などを備え、さまざまな症状やご相談に対応できる体制を整えています。入院治療では地域包括ケア病棟25床及び療養病棟28床を有しており、急性期治療後の受け入れや、人工呼吸器管理、長期的な療養・継続的なケアが必要な患者様一人ひとりの状態やペースに合わせた看護・リハビリテーションを行っております。また、グループ施設との連携により、入院の受け入れから退院後の入所まで切れ目のない支援を提供しております。些細な体調の変化や介護に関するお悩みなど、どんなことでも気兼ねなくご相談ください。職員一同、これからも地域の皆様に寄り添い信頼される医療機関を目指してまいります。



院長
高江 政伸 先生



高江記念病院

TEL : 0996-23-2100

〒895-0005 薩摩川内市永利町2504-1

<https://takaekinen-hp.com/>

■ 診療科目 内科, 外科, 整形外科, 循環器内科, 消化器内科, リハビリテーション科

■ 診療時間

【月曜日～金曜日】 9:00～12:00, 14:00～18:00

【土曜日】 9:00～12:00

※循環器内科 月曜午前のみ、整形外科 月曜午前・木曜午後のみ

■ 休診日 土曜日午後・日曜日・祝日

有村眼科

当院では、医師が治療技術を磨き続けることはもちろん、高水準な治療をしっかりとサポートする様々な医療設備を積極的に導入し、これまで医師の経験や勘に頼らざるを得なかった治療も、先進的な医療設備を駆使することで、格段に精度を高めています。デリケートな部位である目の治療は、患者さんが不安や恐怖心を感じて当然です。当院では少しでも安心して治療を受けていただけるよう、現在の症状や治療内容の説明に力を入れています。患者さんの立場に立って、なるべく専門用語を使わず、わかりやすく丁寧な説明を心がけております。

これからも、地域の皆様のお役に立てるよう日々研鑽し努力していきたいと思っております。



院長
有村 哲 先生



有村眼科

TEL : 0996-29-3322

〒895-0061 薩摩川内市御陵下町20-29

<https://www.arimura-eye.jp/>

■ 診療科目 眼科

■ 診療時間

【月、火、木、金曜】 8:30～12:30, 15:00～18:00

【水、土曜】 8:30～12:30

■ 休診日 日曜・祝祭日

医療型短期入所(レスパイト事業)のご案内

～ご家族に大切な時間を～

日常生活において、気管切開を伴う人工呼吸器の使用や、痰の吸引、経管栄養といった「医療的ケア」が欠かせない方(医療的ケア児・者)は、鹿児島県内におよそ350人いらっしゃると言われていています。医療的ケアは定期的な栄養管理や体位変換などを要し、24時間の介護を担うご家族にとって、心身ともに休まる暇はなく、非常に大きな負担になっています。

「レスパイト」とは、英語で「休息」や「息抜き」を意味する言葉です。在宅介護をされているご家族が、一時的に介護から離れ、心身をリフレッシュしていただくための大切な支援事業です。当院は「医療型短期入所事業」の指定を受け、医療的ケアが必要な方の日中一時支援を実施しています。

日常的な利用だけでなく、台風、大雨、地震後の停電など、災害時の緊急避難を目的とした入所にも対応しています。いざという時の安心の拠点として、当院の支援事業をご活用ください。

対象者について

- ・薩摩川内市、さつま町、いちき串木野市に住所を有する方
- ・「重症心身障害児・者」の認定を受け、医療的ケアが日常的に必要な方
- ・障害福祉サービス受給者証が交付され、「短期入所医療型」の支給決定を受けている方

利用について

- ・月曜日から金曜日(祝祭日を除く)の日中
 - ・病棟のベッドに空きがある場合に利用可能
- ※災害時はこの限りではありません。
※本事業は事前予約制です。初めてご利用いただく際には、事前に自宅訪問や担当者会議(打ち合わせ)を行い、安心安全な支援ができるよう準備を整えます。



ご利用に関するご相談やご質問は、医療連携室(担当:杉田・赤崎)まで、お気軽にお問い合わせください。

理念 私達は、保健・医療・福祉を通じて地域社会に貢献します。

基本方針

1. 患者さんの尊厳と権利を常に尊重します。
2. 医療情報の開示と懇切な説明による開かれた医療を実践します。
3. 私たちは常に研鑽し、患者さん本意の、良質で安全な医療を目指します。
4. 公的中核病院として、地域の先生方と協力し、救急医療と高度の専門医療の推進に努めます。
5. 職員の協調と信頼によって、チーム医療の充実に努め、働きがいのある職場を作ります。

niji 済生会川内病院広報誌
第75号2026年6月1日発行



社会福祉法人
思鸚財団 済生会川内病院

ホーム
ページ▶



nijiへの
ご意見・
ご感想▶



〒895-0074 鹿児島県薩摩川内市原田町2番46号 TEL (0996) 23-5221 FAX (0996) 23-9797
<https://www.saiseikai-sendai.jp> mail : info@saiseikai-sendai.jp